

スポーツ実技（サッカーA）		実習	教授 植木 繁晴 非常勤講師 安部 想史	
科目カテゴリ —	スポーツマネジメントコースの専門選択科目、スポーツトレーナーコースの専門選択科目 教職科目 柔道整復師コースの教養選択科目 教職科目 救急救命士コースの教養選択科目 教職科目	科目ナンバリング	11322104 11532102 12220106 12532102 13220112 13532102	

1. 授業のねらい・概要

本科目は、サッカーの基本的なルールや基礎技術を学び、試合形式のゲームを通じてサッカーの魅力、楽しさを体験する。仲間とともにゴールや勝利の喜びを体感する、また、この授業をとうして体力の増進を図る。

2. 授業の進め方

初心者、経験者を問わずサッカーのルール・基本技術の習得と様々な形の試合形式を中心に行う。
雨天時は教室においてビデオを使用して、ルールの確認や海外の試合を見る。

3. 授業計画

1. ガイダンス	9. 対人プレー クワトロゲーム
2. 基本技術の習得（パス、ボールコントロール）	10. 対人プレー 7対7
3. 基本技術の習得（ドリブル）	11. ゴール前の攻防
4. 基本技術の習得（様々なキックの種類）	12. 試合1対1 セットプレーの攻撃
5. アイスブレイクの実践	13. 試合1対1 セットプレーの守備
6. 対人プレー 1対1	14. 試合1対1 主審・副審の実践
7. 対人プレー 3対1	15. まとめ
8. 対人プレー 4対2	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

Jリーグや海外の試合を見ることでサッカーの技術・戦術の魅力を感じて欲しい、グラウンドレベルで再現できるかは別として真似をしてみようとイメージをつくる。当然、サッカーの1試合（90分）をとうしてみることに。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業中のプレーに対して留意点を指摘する。また、素晴らしいプレーに関しては褒める声掛けをしてモチベーションを上げる。

6. 授業における学修の到達目標

サッカー観戦およびサッカーの試合を行うとき、指導を行うときにルールを十分に理解してサッカーを楽しむことが出来る。対戦相手、レフリーをリスペクトしてトレーニングや試合を行うことができる。

7. 成績評価の方法・基準

授業の取り組み、技術、戦術の理解度（50%程度）。定期的に試験（リフティング等の技術）を行い、上達度を加味して30%程度を、講義への参加意欲（20%）で評価する。

8. テキスト・参考文献

サッカー競技規則と実践的審判法（公益財団法人 日本サッカー協会審判委員会 制作）

9. 受講上の留意事項

実技の際は、運動に適した服装・シューズで参加すること。また、時計・装飾品（ネックレス、ピアス、指輪）は外して参加すること、自分や他の人を傷つける可能性があるため。運動に適さない服装で出席した場合は、授業の参加を認めない場合もある。怪我をしていて参加できないときは怪我の状況を伝えて見学をすること。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無
該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連
上記の「科目カテゴリー」欄記載の通り。